

ゆたかな労働と 生活の場をめざして

発行: 社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ
だより
No. 445

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
地域生活支援センター「あさやけ」	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
	小平元気村おがわ東1階	
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0305
あさやけ風の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269



あんず班ではシフォンケーキやワッフルなどの菓子を作っています。写真は二人で協力して卵の卵白を泡立てているところです。

はたらく

あさやけ作業所

仲間紹介

ひとりひとりが太陽

いつまでも、輝いて!!

海老澤 利香さん

(あさやけ作業所)



利香さんがあさやけ作業所へ来てからちょうど十年になりました。別の作業所でもお仕事をされていきましたので、お仕事歴は三十年余りです。

あさやけ作業所では、ふきんを製造する班、こあら班に在籍されています。口数の少ない利香さんですが、実に表情豊かでユーモアに溢れています。淡々とした日常に、ちよつとした驚きと笑いを演出することを生きがいにされています。こあら班のみならず、あさやけ作業所のムードメーカーです。

利香さんは昨年、ミシンでふきんを縫う作業を覚えました。ペーシ良くふきん縫いの作業に励んでいます。作業室では毎日、利香さんの使うミシンの、心地よい音がしています。

ふきん縫いを覚えるまでは、長い道のりがありました。ミシンを前に一年間、練習を続けました。上手いかないところは試行錯誤、創意工夫しながら。諦めず利香さんと一緒に取り組み続けて、やっとふきんを良品に縫い上げるまでになりました。コツコツ努力できる、頑張り屋の利香さんだからこそ、成し遂げることができたのですね。

ふきんは一枚で五本、直線を縫い、両端は返し縫いをします。縫い終わると、椅子から立ち上がり職員に手渡しして検査します。検査が通るとアイロンをかけて、箱へ入れます。一見、生産性の悪いように思われるかもしれませんが、このことでミシンのステッチなどの不良を早く発見できます。また、こまめに立ち上がることで、適度な運動が必要な利香さんの健康維持にも繋がっています。

利香さんはふきん縫い以外にも、ふきんの生地を八枚重ねに折る作業、完成品のふきんを半分に折る、四つ折りにする、袋に入れる作業をします。十年の熟練した技、実に丁寧でいい仕事をします。利香さんとこあら班のみならず一枚一枚心を込めて作ったふきんは、みなさまから大変ご好評をいただいております。

武蔵野千川福祉会理事長鎌倉先生は、一九六五年代、障害の重い子どもたちが希望しても学校に行くことができなかった頃の全入運動、一九七五〜八〇年代のはたらく力を育む教育実践、そしてその子どもたちの卒後の働く事業所つくりと、障害のある人たちが当たり前に暮らし、今年度の障害者差別解消法に結びついたこと、しかし、一方で社会的認識はまだ十分でなく、施設を建てるときの難しさもお話しされてきました。

私の子どもが通う保育園も、建て替えの際の仮設園舎では窓を開けることができませんでした。子どもが育つ環境で、気持ちいい春の日も、暑い日も寒い日も、どんな風も室内に入らないなんて、区からの「苦情防止が今後の保育園建設に重要」という説明でも、受け入れがたいものでした。特別支援教育では、個のニーズへの支援がされていますが、一方で、迷惑にならないよう「個別対応」されてきたという声も聞かれます。個の権利が尊重される一方で、違いがあることへの許容が狭くなってしまうのでしょ

実践交流会記念講演「生きる力・はたらく力を育てる実践」を聞いて

あさやけ鷹の台作業所

内藤 歎患

うか？

地域社会も機能分化され、各世代が分断され、それぞれの場はより同質化しているような気がします。違いがあるものとの関わりが少ないことは、理解し認め合うことを難しくします。

私が日々一緒に仕事をしている、目の前の鷹の台作業所のメンバー達は、個性的で楽しくて魅力的です。この魅力も、彼らを知らなければ見えないもので、無関心、もつと言えればよくわからない怖さや迷惑な存在と感じてしまう事もあるでしょう。だからこそ、鎌倉先生がお話ししていた「言葉にする大切さ」を思います。ともに

地域を、社会を作る一員として、障害のある人もない人も、大人も子どももお年寄りも、違いのある者同士が関わり合っていくけるよう、そのために、私たち職員は、日々の実践を言葉にし、振り返り、積み重ね、知ってもらおうことが、社会的認識を広げる上で必要になっていると、あらためて記念講演を聞いて思いました。



今日のメニューは、タコライス・ジャがいもと人参の煮物・カブのコンソメスープでした。



この日のメニューはメンバーに好評のタコライス。盛り付けをしている様子です。



ブルーベリーを網に入れてグツグツ四十分くらい煮詰めます。

そして今回特にご紹介したいのは、夏季限定で行う作業、ブルーベリージャムの製造についてです。今年のブルーベリーの製造は八月一日から始まりました。小平市鈴木町にありますペンズファームで収穫されたブルーベリーを使用しています。

その他に、クッキーやパウンドケーキを作っています。なかまちテラス内のCAZEC A F E なかまちはサングリーンのレモンパウンドケーキを置いてもらっています。おすすめ商品ですのでぜひ足を運んでみてください。

この五年間で宇宙班から就労に結び付いた方は数名いらっしゃいます。いずれの方も調理場の補助やスーパのお惣菜売り場など食品に関わる仕事に就いています。宇宙班での経験が他で活かされていることに職員もメンバーもとてもうれしく思っているところです。調理作業を始めた当初は、包丁の扱いに不安があったのですが、包丁を持って移動する際には「包丁通りまっす」と声をかけ合いながら作業を進めています。仕事中は集中しなければいけないため、ときどきおしゃべりをしながら、和気あいあいとした雰囲気で行っています。衛生面には特に気を配り、食品衛生の情報を確認しながら予防に取り組んでいるところです。

サングリーン宇宙班の活動をご紹介します

二〇一二年一月にスタートしたサングリーンは丸五年を迎えようとしています。作業班は、石鹸やダイレクトメールの発送作業を行う虹班(にじ)、フキンやエプロンの縫製作業を行う星班(ほし)、調理や焼き菓子製造を行う宇宙班(そら)の三つに分かれています。五年前に立ち上げた宇宙班。試行錯誤、悪戦苦闘しながらも班としての活動が定着してきています。宇宙班の主な活動は週三回の昼食作りと焼き菓子やジャムの製造です。宇宙班には現在六名のメンバーが所属しています。作業所への通い方は人それぞれのため日によって人数は変わりますが、職員を入れて五人くらいで二十人前後の食数を作っています。午前中は調理作業、午後からは片づけ、清掃、洗濯、食材の買い物という流れ

になっており一日中立ち仕事の場合が多いので、ときどき弱音を吐きながら、お互い励まし合いながら頑張っています。この五年間で宇宙班から就労に結び付いた方は数名いらっしゃいます。いずれの方も調理場の補助やスーパのお惣菜売り場など食品に関わる仕事に就いています。宇宙班での経験が他で活かされていることに職員もメンバーもとてもうれしく思っているところです。調理作業を始めた当初は、包丁の扱いに不安があったのですが、包丁を持って移動する際には「包丁通りまっす」と声をかけ合いながら作業を進めています。仕事中は集中しなければいけないため、ときどきおしゃべりをしながら、和気あいあいとした雰囲気で行っています。衛生面には特に気を配り、食品衛生の情報を確認しながら予防に取り組んでいるところです。

～宇宙班のメンバーの声～

◆宇宙班に入って約一年半になります。ジャム作り、パウンドケーキ、クッキー作りが苦手だったのが、今では家の家事が苦にならなくなり、毎日がそれぞれの作りに楽しみながら稽を出しております。

K・S

◆私は午後からの出勤なので皿洗いが主な仕事です。みなさん昼食会でおいしく食べてくださったんだーと思いながらお皿を洗っています。私は結構皿洗いが好きのかなと考えたらそうではないのですが、宇宙班のメンバーの皆さんに支えられてこなしているようです。買い物では素材や値段により選ぶのも難しいですが楽しいです。クッキー作り、ジャム作りなどは楽しいです。

S・I

◆宇宙班での作業は週三日昼食作りで他の二日はお菓子作り。料理は大変ですがいろいろ勉強になり家での食事作りの参考にしています。まだ作ったことのない料理もたくさんあるのでやってみたいことが山積んでいます。お菓子作りは意外と体力を使い疲れますがお客さんの食べる様子を想像しながら作っています。昼食作りと同じにいろいろなお菓子を作りたいです。

M・N

◆私は宇宙班に入って二年になります。宇宙班に入ってよかったことは家でのレポートが増えることです。大変なことはパウンドケーキで卵が分離しないように素早く混ぜるのが大変です。嬉しかったことはパザーでお客様においしかったと言われたことです。

K・S



計量したジャムをフキンできれいにふき取り、ふたをして蒸し器にかけます。その後ふたを開めなおし、煮沸消毒したら完成。



出来上がったジャムをビンに詰めていきます。こぼさないように気を付けて！



小平産ブルーベリージャム 一個七〇〇円 内容量一九五g
ご注文はこちらまで↓サングリーン 〇四二一三四五一五八五

例年お盆明けからスタートしていましたが、台風や暑さの影響もありブルーベリーの収穫時期が年々早まっていきます。今年は約一〇〇kgのブルーベリーを使用し五九二個のジャムを製造いたしました。毎年出来上がるのを楽しみにしていただいているお客様もいらっしゃる大変嬉しく思っています。エバーグリーン時代から製造を続けているブルーベリージャムですが、今年はジャムのビンやラベルをリニューアルいたしました。摘みたてのブルーベリーとグラニュー糖のみで作っています。果実がごろごろとした食感をお楽しみいただけますよ。夏季限定で作っているため、在庫が無くなり次第販売は終了となりますのでご了承ください。なかまちテラス内でもお買求めいただけます。

③利用者支援を充実させるために、報酬の日払い方式と

常勤換算方式を見直すとともに、本体報酬を増額して下さい。

障害のある人が働く場など、昼間に通う事業所では、利用者が病気やケガ、体調が悪くて事業所を休むと、その分国から事業所にお金が入ってきません。グループホームなどでも、利用者が土日や夏休み、正月に実家に帰ると、事業所に入るお金が減らされる日割り計算方式になっています。また、大雨や台風などで、利用者の安全を考えて事業所を休みにすると、職員が片付けなどをしていても事業所には一円のお金も入りません。

利用者の支援を保障する公的責任を明確にし、事業所が障害のある人たちをしっかりと支援し続けることができるよう、事業運営費は日割り計算方式ではなく月払い方式にして下さい。

④地域活動支援センターについては、国がその実情を把握し、

安心した運営できるよう予算確保のための、措置を講じてください。

きょうされんの調査では、地域活動支援センターは全国に3224カ所あります(2013年3月現在)。就労移行支援事業や就労継続B型事業、生活介護事業の運営費は、国が利用者1人あたりの支払う金額を決めているのに対して、地域活動支援センターの運営費は、標準額を国が示して、市町村が決められています。他の事業所に比べて、事業所に支払われるお金はとて少ない上に、市町村によってその金額には大きな差があります。

⑤障害関連予算の配分率を少なくとも先進国の平均レベルまで引き上げてください。

日本の政府が障害のある人のために使っているお金は、他の国と比べて少ないです。そのため、障害のある人がない人と同じように働き、くらすための日本の制度はまだ不十分です。日本も他の先進国と同じくらいのお金を、障害のある人のために使ってほしいです。

きょうされん主催「がんばるディ 2016 中央企画」in 新宿西口

に参加してきました！！



12月6日、あさやけ作業所の職員と所員二名で参加してきました。

決して足を止めてくれる人が多いわけではないのですが、やまゆり園の話や、障害のある人の暮らしの話をする、熱心に聞いてくれたり、署名をしてくれたりする人もいました。そういう方達に少しでも署名活動のことを知ってもらえるきっかけになればいいと思います。

あさやけのがんばるディもはりきってがんばりましょう！

※署名用紙は1月からお配り致します。

あさやけ署名推進委員長 中島葉子
問い合わせ Tel.042-345-4575

第40次国会請願署名スタート！！

今年度で、第40次となる、きょうされん国会請願署名活動が始まりました。

あさやけでは障害のある人たちが安心して働き、暮らせる地域づくりを目指して、この署名運動に長年取り組み、毎年この時期に、みなさまに国会請願署名と募金をお願いしています。また、その際に、この署名運動で、一番伝えたいことを請願項目としてかかっています。

今回は第40次の『わたしたちの願い＝請願項目』についてお伝えします。



①障害があっても一人の市民として生活できるよう必要な支援は

原則無償にするとともに、年金などの所得保障を拡充してください。

国民の生きる権利を保障することは、国の仕事です。国は、生きるために必要な支援を自分の力で手にいれられない人には、それを無償で提供しなければなりません。

入浴や買い物、着替えや食事など生活の場での手助け、移動の手立て、コミュニケーションの手助け、働く場での手助けなどが、「お金がないから使えない」となると、生きていけなくなるからです。

また、日本でとても貧困な状態にあるとされているのは、一年間の収入が122万円より少ない人たちです。障害のある人のほとんどが障害年金だけの収入なので、障害のある人の81.6%が一年間の収入122万円以下で、貧困な生活を強いられています。現在の障害年金は、それだけ不十分な金額なのです。これでは、結婚生活はもちろん、一人暮らしさえできません。一人の市民としてくらすだけの所得保障が必要です。

②障害者総合支援法の介護保険優先原則を廃止するとともに、

誰もが安心して利用できる介護保障制度を実現してください。

障害者総合支援法第7条(介護保険優先原則)によって、65歳になると、障害福祉と介護保険の同じような内容のサービスは、介護保険を優先して使わなければなりません。「生活介護」ではなく介護保険の「デイサービス」を利用しなさいと言われてたり、「ショートステイ」や「ホームヘルプ」などのサービスも介護保険のサービスを利用しなさいと言われる。介護保険になると、障害福祉サービスを使っている時は無料だった人も、利用料を払わなくてはいけなくなります。またホームヘルプの時間が短くなったりもします。

65歳の誕生日を迎えても、「障害」は変わらないだけでなく、年をとると、たいてい障害は重くなります。65歳になっても、本人の希望にそって、障害福祉のサービスを使えるように介護保険優先原則をやめて下さい。

そして、年齢に関係なくすべての障害のある人が、お金の心配や利用時間・回数の心配なく支援を受け、安心して老後を過ごせるように、国の責任で介護のしくみを作って下さい。

今年も廃品回収にご協力ありがとうございました!

～年間の回収量は141トン(2015年12月～2016年11月)でした～

2016年資源回収回収量												単位/kg
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	合計
新聞紙	9,570	7,970	9,925	7,730	9,930	9,400	8,140	8,690	15,530	7,880	7,590	102,355
雑誌	2,550	2,630	3,490	2,120	2,920	3,120	2,320	2,260	4,120	2,860	1,495	29,885
段ボール	780	650	770	570	720	735	600	770	1,170	580	560	7,905
ウェス	130	110	95	90	180	90	30	40	210	60	45	1,080
合計	13,030	11,360	14,280	10,510	13,750	13,345	11,090	11,760	21,030	11,380	9,690	141,225

※今年の年間回収量は2015年より14トンと大幅に減りました。

※廃品回収は、毎月第三土曜日(8月はお休み)に行っています。回収品目は新聞紙、ダンボール、雑誌、ウェスです。

あさやけ鷹の台作業所の展示販売のお知らせ

2017年1月25日(水)・26日(木) 午前11時～午後5時

ウールマフラー、コットンストールなどの染め織り、刺し子ふきん、ポタンゴムなど手づくり商品をご覧ください。

会場 なかまちテラス(仲町公民館) CAZECAFE なかまちにて

廃品回収のお知らせ

11月の廃品回収の回収量は9,730kgでした。内訳は新聞7,590kg、雑誌・ダンボール2,140kgです。収益は小平市の資源回収補助金も含めて143,085円でした。

次回は1月21日(土)が回収日です。

雨天の場合は中止とさせていただきます。